

大阪大学経営協議会（平成28年度 第3回）議事要旨

日 時 平成28年11月7日（月）13時30分～15時56分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 西尾総長（議長）

大石、尾崎、佐藤、鈴木、土屋、鳥井、野路、村尾、CASSIM、米田、三成、小林、八木、小川、山中、吉川、工藤、鬼澤、堂目、河原、澤、有川 各委員

欠席者 井上、井野瀬、津賀、友野 各委員

議事に先立ち、西尾議長より会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。なお、前回（9月1日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

続いて、鬼澤委員より先般記者発表を行った本学における不適切経理について説明があった。

その後、西尾議長より学術研究費の現状について説明があった。

議 事

【議事】

1 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

三成委員から、配付資料に基づき、国立大学法人評価委員会による平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について報告があった。

2 平成29年度概算要求事項について

三成委員から、配付資料に基づき、文部科学省から財務省へ提出された平成29年度概算要求事項について報告があった。

なお、学外委員より以下のような意見があった。

- ・国立大学の厳しい状況を見ると、今の国の政策は国家百年の計という考えに立っていないのではないか。国の根幹をなすものは何かというレベルの議論が必要であり、文部科学省との議論というレベルではないように思う。
- ・産学連携により自組織の経営は自組織で成り立たせるというのが世界の情勢であり、日本の大学も産学連携により自己財源を増やしていくしかないのではないか。大学と企業が連携して応用研究を行い、企業がその分の人件費を負担することにより、大学はその人件費分を基礎研究に回すことができる。この好循環を理解して産学連携を推進してほしい。

3 キャンパスマスタープランの改訂について

三成委員から、配付資料に基づき、平成28年度中に改訂予定のキャンパスマスタープランについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

4 教職員の給与等について

鬼澤委員から、配付資料に基づき、平成28年12月期の役員賞与及び教職員賞与の支給基準等、平成28年人事院勧告（給与勧告）等への本学の対応並びに職務給制教職員等の給与額等の改定について説明があり、審議の結果、これを承認した。

5 前回のご意見に対する取組状況について

西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助言に対する取組状況について報告があった。

【その他】

1 「大阪大学リーダーズフォーラム」の開催について

西尾議長から、配付資料に基づき、「大阪大学リーダーズフォーラム」の説明及び参加案内があった。

2 「大阪大学の集い（東京）」の開催について

工藤委員から、配付資料に基づき、東京で開催する「大阪大学の集い」への参加案内があった。

【意見交換】

1 大阪大学のグローバル化

山中委員から、配付資料に基づき、本学の取り組み等について説明があった後、学外委員から以下のような意見があった。

- ・海外から大阪に来て勉強した人がどこへ行くのか、海外から家族を連れて大阪に来た場合に大阪は相応しい環境か、この二点に留意して、どうすればビジネス、学業、研究のために大阪に定着してくれる人を増やせるかを大学と一緒に考えていきたい。
- ・海外拠点の設置場所やダブルディグリープログラムの相手先などは、先を見据えて戦略的に考える必要があるのではないか。
- ・将来どういう姿の大学を目指しているのか、その中でグローバル化をどう位置付けているのか、全体的な大学の将来像からのグローバル化の在り方がわかると良いのではないか。大阪大学の強みや特徴をベースに、いかに海外に展開していくのかを考えるべきである。
- ・海外留学者数が在学生数から考えると少ない。どのようにして学生に動機付けするのかを考え、それに合わせてプログラムを検討してはどうか。また、外国人患者受入れ等の医療のグローバル化の面でももっとできることがあるのではないか。

- ・従来の日本の大学の国際交流を超える取組を行ってほしい。用心深くならず、新しい切り口のある、他大学が真似できないようなことをしてほしい。
- ・大阪大学出身のプリンシパル・インベスティゲーターを海外で育てることを、目標として持ってほしい。それにより大阪大学のカルチャーを持った人材が海外で増え、グローバル化につながるのではないか。

(以 上)